

令和7年度 学校関係者評価書

宇和島市立和霊小学校

1 確かな学力の定着と向上（必須）

- 「ICTの活用」について、調べ学習や自分の考えをまとめるツールとして、授業で積極的に活用していることや、コミュニケーションを図ったり、個別最適な学びを推進したりするために、ICTの活用が欠かせない時代になってくることが分かった。
- 読み聞かせから、子どもたちの読書活動へつながっていけばいいなと思うが、まずは、朝のひとときを、お話を読んでもらう楽しい時間、また心の落ち着く時間とし、その日一日をよい日にしてもらいたいと思う。
- 司書教諭の効果的な活用ができていない。子どもたちがじっくり本を読みたいと思えるような図書室の環境づくりなど、ボランティアとして協力したい。
- 学校保健委員会で、城北校区児童は血圧やコレステロールの数値に課題が見られる。また、和霊小児童の体力テストの結果から、児童の体力が低下しているとの報告を受けた。来年度以降も生活習慣の見直しや体力が向上するように家庭への啓発や具体的な取組をお願いしたい。

2 生徒指導の充実（必須）

- 校区内で児童を見掛けた際には、児童の方から挨拶や会釈をしてくれてうれしかった。
- 秋祭りや輪抜けなど、地域の行事に参加する児童が多くいる。また、友達や親たちと交流している様子は、とても微笑ましく、貴重な体験の場となっていると感じた。補導していても言葉を交わすことができ、子どもたちの成長を感じることができた。
- 子どもの健全育成のために尽力され、先生方には心から感謝している。地域（和霊町）でも、子どもの数が減ってしまったこともあり、静かで落ち着いた子どもの様子が見られる。
- 読み聞かせの活動を通して、子どもたちに親しみを持ってもらっているようで、学校外で出会ったときなど、気持ちのよい挨拶をしてもらえるので大変うれしく思う。自分もより一層、見守りの気持ちが強くなり、子どもたちが学校でも地域でも元気に成長していってほしいなど応援している。
- 6年生に不登校児童が多いとのことだが、何か原因があるのだろうか。中学校に向けてのサポートと、一人一人の子どもたちにとって、学校が楽しい場所となるように期待している。
- 自転車のヘルメットを着用していない子がいたので、何度か注意をした。命の大切さやヘルメット着用の効果について、子どもたちの心に響くような指導をしていただきたい。

3 働き方改革（必須）

- 教職員の時間外勤務について、80時間を超える教職員が比較的多いことが気になった。放課後の課外活動後に仕事をするということで、夜遅くまで残って仕事をする状況になっているようだ。何とか打開策はないだろうか。よい仕事をするために、まずは自身の心身の健康、そして御家族の幸せを考えた勤務を心掛けてほしい。学校側からも、職員の増加を希望したり、ワークライフバランスを意識した働き方を行う必要性を伝えたりしているそうである。

4 地域との連携（必須）

- いつも地域と学校の連携について考えていただき、ありがたい。協議会メンバーと学校は、話し合いをする場や出会う場があり親しくなれるのだが、なかなか地域の方のお考えを聞けないのが残念である。保護者側からの要望や御意見を広くお聞きしたい。今、何が必要で、どうしたらよりよくなるか保護者の皆様のお考えを聞く機会があればよいと思う。
- 保護者からの相談に対して、すぐに学校側の意見を伝えるのではなく、まずは保護者の話をしっかり聞いて意図することを受け止め、児童や保護者の背中を押すような励ましの指導をしていく体制をつくっていただきたい。またそれが保護者との信頼関係にもつながっていくと考える。

5 その他

